

**01 国際交流員のコラム - 鹿児島県国際交流員 陳 芸(チン ウン) -**

○鹿児島県での生活を振り返って

02 知事の動き

○鹿児島情報高校の皆さまが訪問されました(2月6日)

○ベトナム・テト(旧正月)フェスタ 2026in 鹿児島に出席しました(2月15日)

○「ピンクシャツデー」の取組の報告がありました(2月18日)

○鹿児島のディスティネーションキャンペーン等を紹介するため、さんふらわあの方々が訪問されました(2月20日)

03 かごしまのイベント情報

○鹿児島マラソン(3月1日)

○初午祭(3月8日)

 Coming UP !【令和8年4月、5月のイベント情報】

○鹿児島県での生活を振り返って

鹿児島県国際交流員 陳 芸(中国出身)

アジサイが咲き誇る 5 月、私は美しい鹿児島を訪れ、人生における不思議な旅の幕を開けました。

あっという間に桜が咲き誇る季節、別れの季節がやってきましたが、初めて鹿児島に来た時の光景は、まるで昨日のここのように思い出されます。かつて、桜といえばロマンチックなものであり、春の使者であり、あらゆる新たな希望の始まりだと感じていました。しかし、今年の桜には、別れの切なさが幾分加わっています。スマホのアルバムをめくってみると、鹿児島でのわずか 10 ヶ月の間に、なんと 2 万 3000 枚以上の写真を撮っていました。これらの写真は、私が鹿児島で過ごした四季を記録したものであり、この信じられないような人生の体験を物語るものでもあります。それは、一生をかけても懐かしむ価値のある、かけがえのない時間です。

私はゆっくりとこれらの写真を見返し、写真と共に時を遡り、色鮮やかな鹿児島での生活を再び思い起こしていきます。

夏の鹿児島は緑に包まれ、活気に満ち溢れていました。初めて鹿児島に来た時は緊張と興奮が入り混じっていましたが、同僚たちの温かいサポートのおかげで、すぐに仕事や生活に慣れることができました。

日中友好協会の総会で発言した時の高揚感や、清華大学の代表団を歓迎した際に知事の通訳を務めた時の緊張感など、今振り返っても鮮明に思い出されます。こうした実務経験のおかげで、私の業務能力と日本語力が向上しました。



仕事が終わった後、いつもとは違う道を通って帰ることもありました。まるで冒険のようで、とても楽しかったです。

別の日には海辺の遊歩道へ行き、一人で静かに桜島を眺めながらぼんやりと過ごすこともありました。

騎射場の「太一商店」へ行って、肉が山盛りのラーメンを食べることもあります（すごくおすすめです!）。

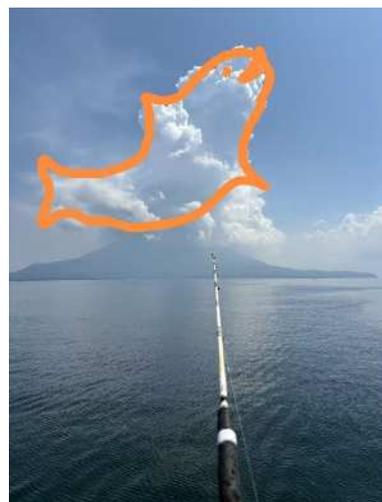
時には県庁舎の 18 階にある展望台へ行き、ロマンチックな夕日を眺めることもありました。



この活気あふれる夏、私もたくさんの新しい体験をしました。中でも一番楽しかったのは、友達と一緒に海へ釣りに行ったことです。36度という猛暑の中、私たちは年配の方たちと一緒に栈橋に立ち、一言も発することなく、ただ魚が早く釣れることばかりを願っていました。周りの年配の方たちが次々と魚を釣り上げるのを見て、私は焦りを感じました。

その時、突然私の釣り竿が激しく震え、ついに魚が掛かったのです！私は全身の力を振り絞って釣り竿を引き上げ、魚が水面から飛び出した瞬間、会場全体から歓声が上がりました。その日一番大きな魚だったのです！

しかし、スタッフが私の釣った魚を見て、すぐに「触らないでください」と注意してくれました。なんと、それは毒がある魚だったのです。今でもあの瞬間を思い出すと胸が高鳴ります。本当に楽しい思い出だと思います！



秋の鹿児島は黄金色に染まり、キンモクセイの香りが漂い、実りが豊かな季節です。鹿児島は日本南部に位置し、気候は穏やかで、秋が訪れるのも私の故郷より少し遅めです。



ある日、通勤途中、ふと懐かしい香りが漂ってくるのに気づきました。それはキンモクセイの香りでした。ついに鹿児島の秋がやってきたのです！その日、協会の中国語講座で、私はモクセイをテーマで皆さんと楽しいお話し合いました。日本ではあまりキンモクセイの花を食べないようですが、実は中国では料理によく使われています。私は皆さんに桂花酒、桂花糕、桂花酒釀などの料理を紹介したところ、皆「今度中国に行ったら絶対に食べてみたい」と口を揃えて言っていました。これこそが、国際交流員としての仕事の意義の一つなのだと思います。

各場所で行う中国語講座の開催は、国際交流員としての重要な業務の一つであり、私にとって最も好きで、最も楽しみにしている仕事でした。

鹿児島国際交流協会が県民の皆様を対象に開催している中国文化講座では、皆が自由に意見を交わし、和気あいあいとした雰囲気でした。

鹿児島県庁で職員向けの中国語学習講座を開いた際には、皆が忙しい仕事の合間を縫って学習に励む姿に深く感動し、大いに勇気づけられました。

県内の小学校で実施した、小学生向けの中国文化講座では、子供たちが賑やかに私の周りに集まり、中国に関する様々なことを尋ねてきました。その無邪気で活発な姿は、今思い返しても自然と笑みがこぼれます。

県庁の新入職員に向けオリエンテーションでは、職場に足を踏み入れたばかりの皆さんの期待と緊張した様子を見て、私が初めて鹿児島で働き始めた頃のことを思い出しました……

鹿児島での秋の生活は、忙しくも爽り多い季節でした。中でも最も印象に残っているのは、鹿児島市日中友好協会設立 40 周年および鹿児島県日中友好協会設立 20 周年記念式典に招待され、会議の中で知事の挨拶の通訳を務めたことです。これほど盛大な会議で通訳をするのは初めてで、心臓が飛び出そうになるほど緊張しましたが、幸いにも無事に任務を全うすることができました。懇親会では、呉江浩大使や来賓の方々に鹿児島の名産品をご紹介させていただき、大変光栄で、誇らしい気持ちになりました。

冬の鹿児島は青く、ほのかな切なさに包まれながらも、そこには独特な温もりがありました。鹿児島での生活にもすっかり慣れ、仕事もますます手慣れたものになってきました。

皆が心待ちにしながら新年を迎えようとしていた時、私自身にある出来事が起こり、平穏な日常が打ち砕かれてしまいました。私に遭ったことを知った皆は、大変心配してくれ、熱心に病院の手配をしてくれたり、仕事のことなど心配しなくていいと優しく声をかけてくれたり、回復の様子を気遣ってくれたりしました。皆さんの温かいお心遣いは、まるで冬の松明のように、私の痛みを和らげ、悲しみを薄めてくれました。鹿児島に来て以来、皆さんからいただいた気遣いやお世話は、空の星のように数え切れないほどですが、異国の地での私の生活を照らし、大きな温もりを与えてくれました。この場を借りて、皆さんの助けとお世話に心から感謝申し上げます。皆さんと出会えて本当に良かったです。



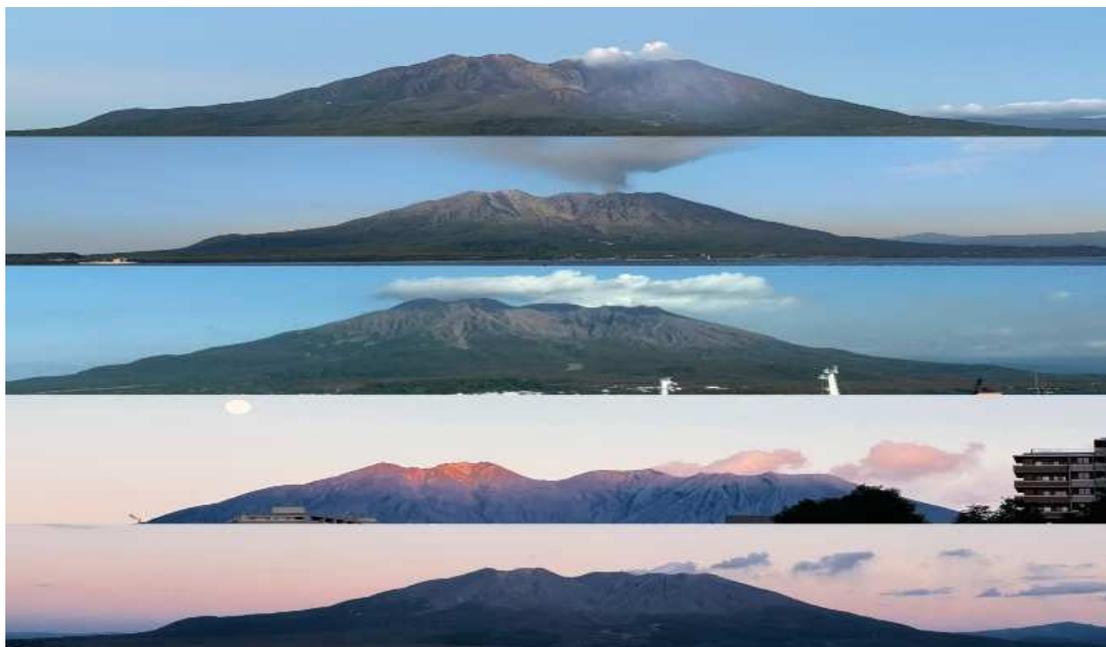
春の鹿児島はピンク色に染まり、桜が満開で、すべてが新たな始まりを感じさせます。私の故郷である塩城は、中国で唯一山のない都市であり、ましてや火山などありません。そのため、鹿児島に住んでいた間、何度か桜島に足を運びました。

ビジターセンターでは、桜島の形成の歴史や噴火の様子について学び、大変勉強になりました。また、桜島では、噴出した火山灰のおかげで、日本最大の大根と最小のミカンが栽培されているなんて、本当に面白いと感じます。

夏には灼熱の太陽の下、湯気の立ち上る温泉に浸かり、汗を流しました。

秋には桜島の特産品店で季節限定のミカン味のアイスクリームを味わい、その余韻がいつまでも口の中に残りました。

春には穏やかな春風に吹かれながら桜島を散策し、春の日差しが明るく、景色も穏やかです……桜島には私の素晴らしい思い出がたくさん詰まっています！



時はいつもあっという間に過ぎ去り、気づけば別れの季節がやってきました。「さようなら」という言葉は、どうしても口に出すことができません。国際交流員としての仕事は終わりましたが、今回の別れは決して終わりではなく、皆さんと私との絆はこれから始まるばかりです。これまでずっと私を気にかけて支えてくださった皆さんに心から感謝申し上げます。皆様の今後のご多幸をお祈り申し上げます。

ありがとうございました。

02 知事の動き

○鹿児島情報高校の皆さまが訪問されました(2月6日)

台湾屏東県と交流している学校法人原田学園鹿児島情報高等学校の皆さまが、昨年11月に同県で開催された墾丁(ケンティン)マラソンへの参加や、国立屏東大学との交流などの報告のため、県庁を訪問されました。

本県と台湾屏東県は、令和6年に友好交流協定を締結し、青少年、芸術文化などの幅広い分野で交流しています。同校の皆さんは、屏東大学などと積極的に交流されており、今回、先生方、生徒の皆さん総勢69名で訪台されたそうです。

校長先生からは、訪台した生徒の皆さんが成長している様子を、生徒の皆さんからは、現地の方々との触れ合いや、食、文化の違いなど海外との交流で感じたことをお話しいただきました。

今後も、同校と屏東県との交流が深まっていくことを期待しています。



▲鹿児島情報高校の皆様と



▲台湾訪問時等についての懇談の様子

○ベトナム・テト(旧正月)フェスタ 2026in 鹿児島に出席しました(2月15日)

ベトナム・テト(旧正月)フェスタ 2026in 鹿児島を開催しました。

このテトフェスタは、ベトナムの旧正月「テト」の時期に、県内在住のベトナムの方々に故郷を懐かしんでもらうとともに、県民の皆さまとの交流などを促進することを目的に2019年から毎年開催しています。

当日は、駐日ベトナム大使館のファム・クアン・ヒエウ特命全権大使にビデオメッセージをいただいたほか、ベトナムの料理や特産品の販売ブース、ベトナムの伝統舞踊や獅子舞の披露など幅広い世代や国籍の皆さまが楽しめる催しを行い、会場は大いに賑わいました。

県としましては、引き続き、ベトナムとの関係強化を図るとともに、テトフェスタの開催などを通じ、ベトナムの方々が地域社会の一員として、安心して暮らし、働くことのできる環境づくりに取り組んでまいります



▶テトフェスタでの挨拶の様子

○「ピンクシャツデー」の取組の報告がありました(2月18日)

鹿児島 YMCA の方々が、いじめ反対運動「ピンクシャツデー」の周知活動のため県庁を訪問されました。

「ピンクシャツデー」とは、2007年に、カナダの学生2人から始まったいじめ反対運動で、人々がいじめに反対する姿勢を象徴するために主にピンクのシャツを着たり、ピンク色のものを身に付けたりすることで、いじめ反対の意思表示をする運動とのことです。

現在は約180の国や地域に広がり、世界的キャンペーンの一つになっており、日本のYMCAはこれに賛同し、毎年2月の最終水曜日に全国各地でイベントを実施しているそうです。

今年のピンクシャツデーは、2月の最終水曜日の2月25日(水曜日)です。多くの方がいじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日となることを期待しています。



▲ピンクシャツを着た上での記念撮影



▲YMCAの方々との記念撮影

○鹿児島県のディステーションキャンペーン等を紹介するため、さんふらわあの方々が訪問されました(2月20日)

「さんふらわあがつなぐ地域の魅力 南鹿児島編」ディステーションキャンペーン等のPRのために、株式会社商船三井さんふらわあの方々が訪問されました。

人や食、体験、そして唯一無二の体験が織りなす鹿児島県の魅力を全国に伝え、鹿児島県のすばらしさをもっと多くの方に知ってもらうため、各種プロモーションやキャンペーンを通じて、本県の魅力を存分に味わえる旅を提案していただきます。

また、台湾からの誘客強化のため、航空機とフェリーを組み合わせた新しい周遊スタイルを提案していただいております。

これらのキャンペーンにより、多くの方が本県に訪れてくださることを期待しています。



▲さんふらわあの方々と記念撮影



▲さんふらわあの方々と懇談の様子

03 かがしまのイベント情報

○鹿児島県マラソン(3月1日)

鹿児島県マラソンは、マラソン(42.195km)と市内中心部を走るファンラン(8.9km)の2種目あります。世界有数の活火山・桜島と波穏やかな錦江湾が織りなす雄大な景観、南九州随一の繁華街天文館、明治日本の産業革命遺産、西郷銅像など明治維新の息吹を感じられる街並みの中を、鹿児島県のおいしい食べ物を楽しみながら走ることができる大会です。

当日は、天気も良く、たくさんのランナーの皆様が沿道の応援を糧に力強く走っていました。



◀当日のランナーの皆様と沿道の応援者の様子
「©鹿児島マラソン実行委員会事務局」

○初午祭(3月8日)

五穀豊穡・家内安全・畜産奨励・厄払いを祈願する祭りとして約470年前の室町時代に始まったとされ、当日は県内外から多くの観客が訪れます。

また、20数頭からなる奉納馬と2千人の踊り手の出演で、終日賑わいを見せています。

馬の背中に飾りをつけ、首には鈴をつけた「鈴かけ馬」が踊り連を引き連れて太鼓や三味線にあわせ、マンボのように踊る全国でも珍しい祭りです。

毎年10万人もの人出があり、鹿児島を代表する祭りです。



▲多くの人で賑わった会場の様子「© K. P. V. B」

🏰 Coming UP! 【令和8年4月、5月のイベント情報】

◇4月

25日 桜島と芸術花火 (鹿児島市)

25日～26日 かごしま春祭大ハンヤ2026 (鹿児島市)

詳細はこちら↓

◇5月

3日 吹上浜 砂の祭典 (南さつま市)



是非足を運んでみてください♪



編集後記 (鹿児島県観光・文化スポーツ部 国際交流課)

「1月に行く、2月は逃げる、3月は去る」という言葉を聞いたことはありますか？これは、1月から3月までの時期は時間の流れが速く、毎日があっという間に過ぎ去ることを例えた言葉です。日々の忙しさに追われる中で、気づけばあっという間に3月を迎えています。

3月は旅立ちや別れが多く、切なくなる季節ですね 

でも、寂しいと感じるのは、それだけ大切な時間を一緒に過ごせた証拠。

別れの向こうには、きっとまた新しい出会いが待っています。

そう思いながら、これまでの感謝を胸に、次の季節を迎えたいと思います♪

来年度もどうぞよろしくお願いたします。

「かごしま南の風便り掲示板」では、次の鹿児島に関する話題を募集・掲載いたします！

☆鹿児島フォトギャラリー

鹿児島らしさを感じる写真や海外で見つけた鹿児島に関する写真を募集いたします。
写真の簡単な説明を添えてお送りください（例：克灰袋の山）。

その他、読者の皆様に発信したい情報もお待ちしております。

▲▽ 記事提供・お問い合わせ先 ▼▲

鹿児島県 観光・文化スポーツ部 国際交流課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1

電話番号: +81-99-286-2306

FAX 番号: +81-99-286-5522

電子メールアドレス

英語: cir1@pref.kagoshima.lg.jp

中国語: cir2@pref.kagoshima.lg.jp

韓国語: cir3@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島県庁ホームページ

<http://www.pref.kagoshima.jp/>

鹿児島県観光サイト かごしまの旅

<https://www.kagoshima-kankou.com/>



※ 本記事の著作権は鹿児島県に属します。無断での再配信、転載及び掲示板等への掲載は禁止します。